

宜野湾市長が琉球大学病院を視察 — 医療用資材搬送ロボット開発の進捗を確認 —

2026年2月27日、宜野湾市の佐喜眞淳市長および和田副市長ら市関係者が琉球大学病院を視察し、内閣府の沖縄振興特定事業推進費民間補助金を活用した「異業種連携による事業創出モデル事業」の一環で実施している、病院と県内企業が協働して進める「医療用資材搬送ロボット開発」プロジェクトの最新状況を確認しました。

視察の概要

- 日時:2026年2月27日(金)10:30~11:30
- 場所:琉球大学病院(西普天間キャンパス)
- 主な内容:進捗状況説明、AMR搬送デモ視察、意見交換



視察に参加した関係者の集合写真 搬送ロボットと共に

冒頭あいさつ



病院側代表として平田副病院長が挨拶



株式会社 okicom 小渡副社長挨拶



事業の背景・目的・進捗について説明



試験運用の映像を示し、運用効果を説明

搬送ロボット(AMR)デモ視察

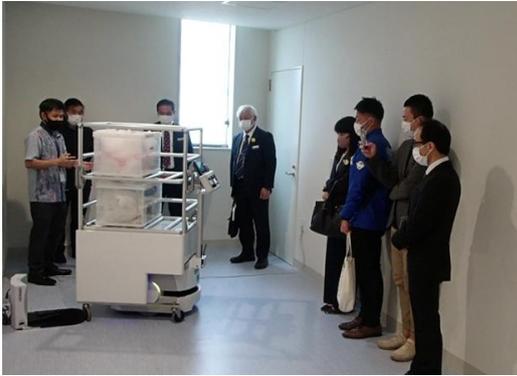


主要機能の説明



質問をする佐喜眞市長

<走行デモの様子>



病院 4 階充電ステーションから発車



自律走行によりエレベーターへ



目的階(8 階病棟)へ荷物を搬送後、4 階へ帰還。充電ステーションへ戻る

意見交換



病院・企業・市関係者による意見交換



佐喜真市長の総評

プロジェクトの概要と今後

本プロジェクトは、県内で設計・製造・運用まで一貫した医療用搬送ロボットの実現を目指し、医療現場の業務負担軽減、夜間・休日を含む院内物流の効率化、地域産業との協働による技術の定着といった効果を見込んでいます。今後は院内での実証フェーズを順次進め、制御・EV連携・運用管理の最適化を図っていきます。